

ニッポナリアと対外交渉史料の魅力 (22)

コレクションを「北盾文庫」と呼ぶ人があります。⁽⁵⁾これは、前述のように彼の名前「Nordenskiöld」を日本語に訳したものです。恐らく、遙かスカンジナビアの地に日本の書物が大量に存在していることを喜びとして、さらに、ノルデンショルドに深い敬意を表しながら、凜として威厳が漂うこの日本語名を用いはじめたのではないのでしょうか。

しかし、残念なことに日本以外の国ではノルデンショルドが日本へ立ち寄っていたということが忘れ去られているという現実があります。⁽⁶⁾従って、スウェーデンではこのコレクションがストックホルムにありながら、その成立過程を知らない人が多かったようです。

こうした中、ロニーの目録刊行から97年を経た1980（昭和五十五）年に、セーレン・エドグレン⁽⁷⁾というアメリカ人が目録を再編纂して“*Catalogue of the Nordenskiöld collection of Japanese books in the Royal Library*”（本学所蔵）をストックホルムで刊行しました。この目録はカテゴリーの構成がロニーのものとは異なる中で、収録された書物についての書誌記述も現代的で丁寧さが目立ちます。また、ノルデンショルドが持ち帰ったとされる領収書をもとにした書物ごとの取得金額までが書かれています。さらに重要なことは、一点ごとにロニーが作っていた目録の項目番号が付されており、それと書誌的な比較もできるようになっていることです。このような機能を備えた目録が完成したことによって、書物の検索を容易にさせただけでなく、鉱物学者ノルデンショルドと日本文化を綴った書物との関係を蘇らせる効果があったものと推測できます。

■今、ノルデンショルドの功績は

ノルデンショルドの北東航路の発見と日本訪問は、彼の47歳の時でした。帰国後、彼は北極海の探検と新航路を発見した功績でオスカル二世からスウェーデンの男爵に叙され、その後も調査や研究を繰り返して科学者、また探検家としての名声を高めたのでした。

しかし、彼が発見した北東航路は距離的な利点は認識されながらも、自然環境の厳しさが原因となって利用した船舶が少なかったようです。

のちの日露戦争時に、バルト海からウラジオストクを目指したバルチック艦隊さえも、大半の航路が自国近海にありながら、これを利用することはありませんでした。また、その後の度重なる戦争や国際情勢もこの傾向に拍車をかけ、当初、各国が期待していたような大きな国益や利潤の追求には繋がっていません。

一方、書物のコレクションは、ノルデンショルドがこれをスウェーデンへ持ち帰って今年で丁度130年になります。現在、それぞれの書物が日本で入手し難くなっていることや、ヨーロッパにこの種のコレクションが少ないこと、さらには日本の国際化の進展によってジャパノロジストと呼ばれる日本研究者が増加していることなどを背景にして、コレクション全体の稀少的な価値が高まっています。

今まで日本人にとって、このコレクションは馴染みの薄かったものでありますが、スカンジナビアに存在する数少ない日本の伝統文化の集積です。また、これはノルデンショルドが極めて友好的な雰囲気の中で、日本人の力を借りて集めたものでもあります。このようなことから、彼が愛したスウェーデンやフィンランドなどの北欧の人たちとの友情の絆として、わが国でもこのコレクションへの認識を高め、これらの国々との交流の発展へと繋げていきたいものです。

基本的な参考文献

○A.E.ノルデンシエルド著 小川たかし訳『ヴェガ号航海誌（上・下）』フジ出版社 昭和63年。

○三木富彦「ノルデンショルドの本棚」『図書』（岩波書店362号）。註

- (1) “*The arctic voyages of Adolf Erik Nordenskiöld, 1858-1879*” London, Macmillan, 1879. (本学図書館所蔵 写真左) などの記録がある。
- (2) A.E.ノルデンシエルド著 小川たかし訳『ヴェガ号航海誌（上）』56頁 フジ出版社 昭和63年。
- (3) Carl Peter Thunberg (1743-1828) 帰国後、母校ウプサラ大学の学長を務めた。本学図書館は著書多数を所蔵している。
- (4) Léon de Rosny (1837-1914) は独学で日本研究を進め、著作は語学や歴史、文化など多岐に及ぶ。来日経験はない。
- (5) 「ノルデンショルド」『来日西洋人名事典』増補改訂 日外アソシエーツ 1995年 287頁 所収。
- (6) フィンランド大使館の報道・文化参事館で社会学博士のカウコ・ライティネン氏が「ノルデンショルドの北東航路探検隊」（『きゅうぶらす』Vol. 4. ヤマギワ1999年。16頁。）でこのことを指摘しており、併せて彼の存命中の早い時期から名譽の回復がなされていることを踏まえながら、ノルデンショルドがフィンランドに関係があるということは、フィンランド以外では知られていないという趣旨も記述している。
- (7) Sören J. Edgren (1942-) スウェーデン系アメリカ人で、ストックホルム王立図書館に勤務した書誌学者。

おく まさよし（司書・事務長兼管理運営課長）